

第5回 五線譜入門5 イヤトレ コード&スケール

メロディライティング入門1

コードのイヤトレニング1

コードを聞き取るのコツは、コードそのものの響きをキャラクターとして捉えることです。一音ずつの構成音を把握しようとする、かえって難しくなります。

3和音(トライアド)

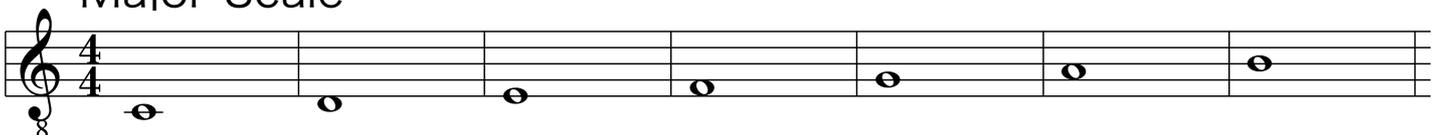
- [メジャートライアド] 明るい
- m [マイナートライアド] 暗い
- m(♭5) [ディミニッシュトライアド]
- + [オーギュメントトライアド]

4和音(7th chord)

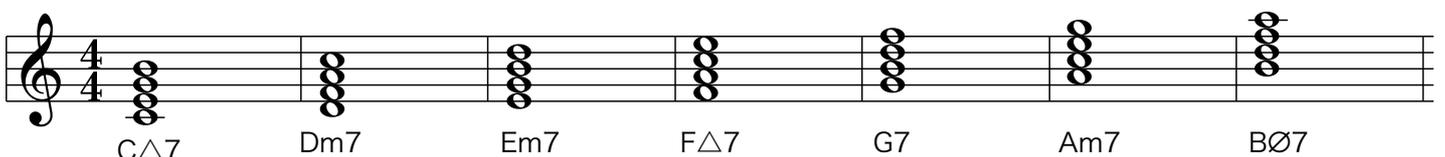
- Δ7
- m7
- 7
- Ø7

Diatonic 7th chord (D7C)

Major Scale



メジャースケールの音を材料にして3度堆積によりコードを作ります。このコード群を「Major Scale Tone 7th Chord」別名「**Diatonic 7th Chord**」といいます。

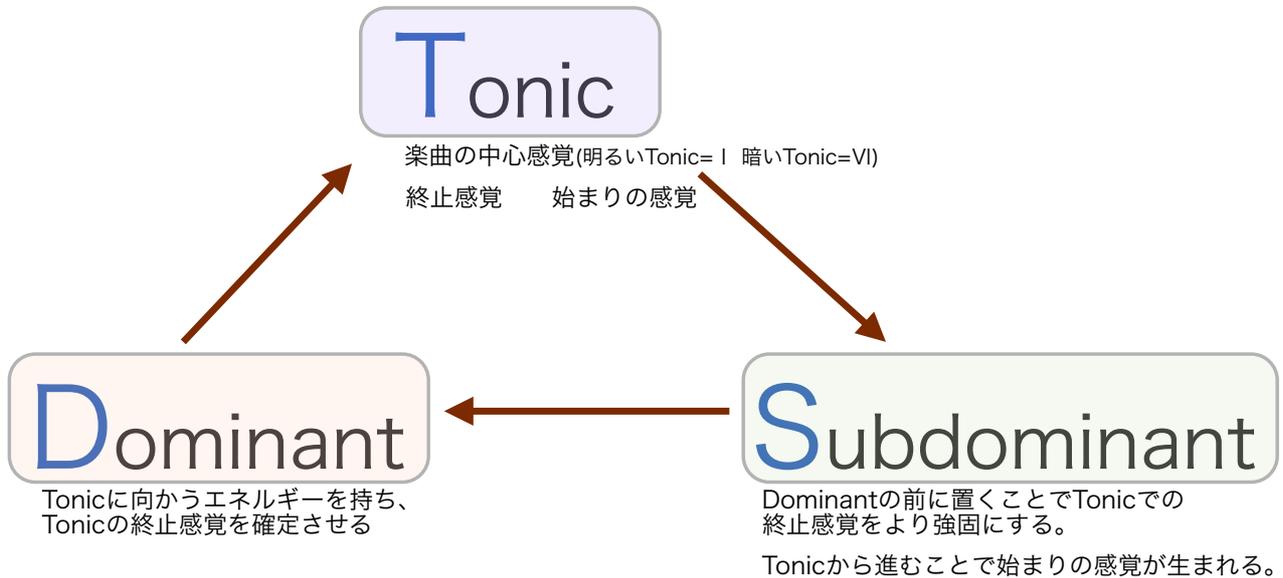


Function(機能)

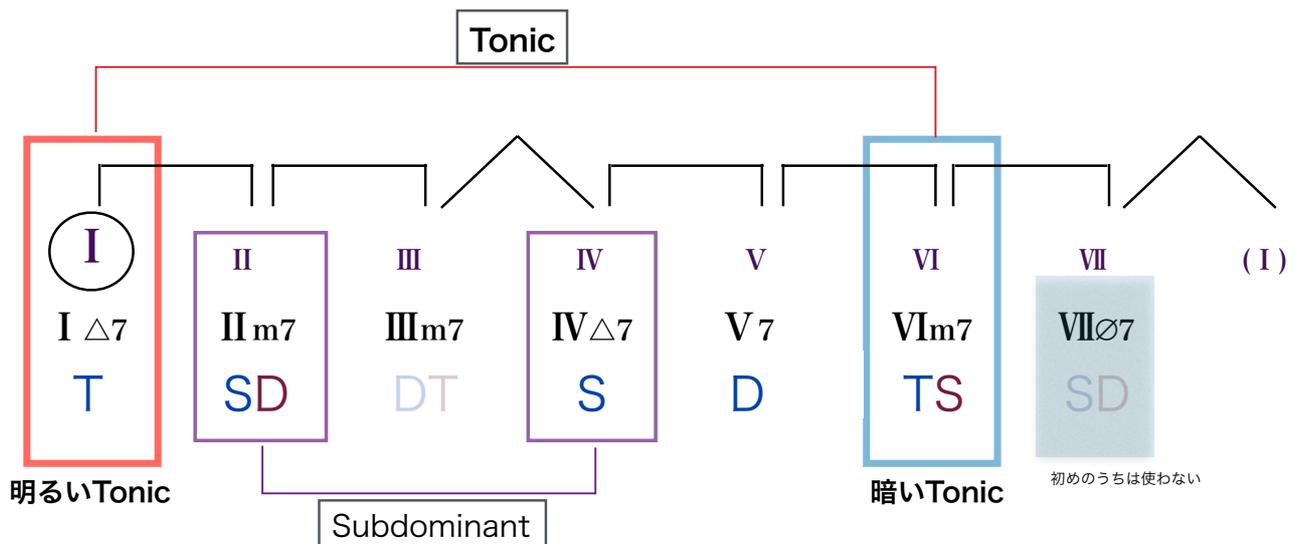
Function(機能)とは曲の進行感を司る要素のこと。各コードは1つ、または2つのFunction (機能)を持ち、コード進行において時間軸上の配置への目安に役立ちます。

以下、Tonic=T Subdominant=S Dominant=Dと表します。

各Function(機能)の性質と自然的な流れ



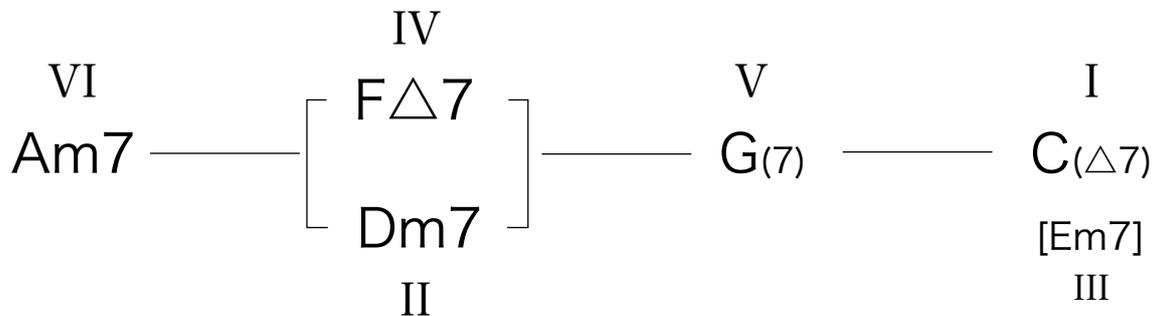
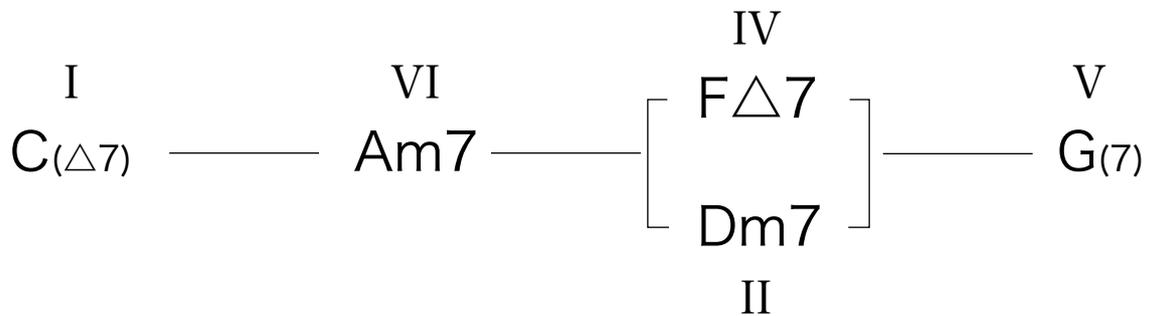
メロディ構築においては、まずは「Tonic」の感覚をつかむことがとても重要です。



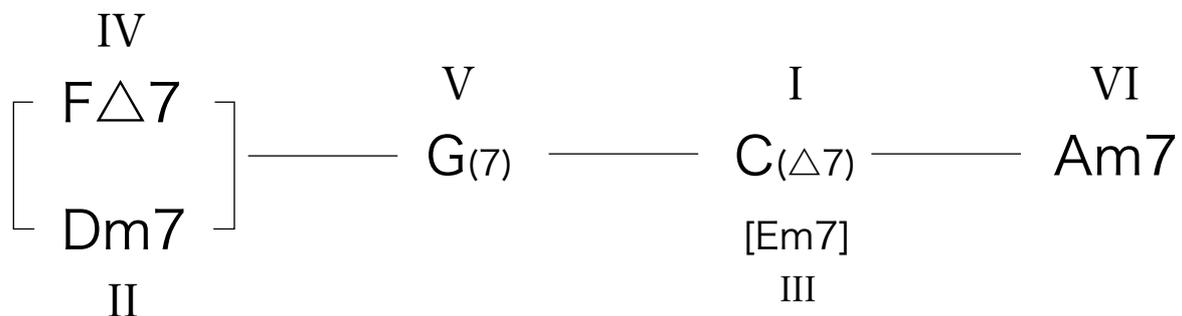
スケール感覚をDiatonic 7th chordに拡大します。

トニックスタートのコード進行とサブドミナントスタートのコード進行の感覚をつかむことは楽曲構築で重要になります。

循環コード トニックスタート



循環コード サブドミナントスタート



コード進行を耳コピーできるようになるためには、「今なっているコードが、メジャースケールの何番目か」という相対度数の把握が重要です。

